

mono

モノマガジンのウェブ版「mono ONLINE」<http://www.monomagazine.com>
 平成13年10月16日発行(毎月2回2日・16日発行) 第20巻第17号(通巻438号) 昭和57年11月2日第3種郵便物認可

10-16

モノ・マガジン情報号
 新製品情報と時代を読む特集
 新製品情報
 2001 NO.438
 定価620円

編集部総力取材

特集
 グラマラスオーディオ
 タタミズム 折りたたみ



0.3カラット

一万円

ラウンドブリリアントカット
 ダイヤモンド

ヴィンテージ
 普洱茶

一杯一万円



一台一万円!

トヨタ・クラウン
 ロイヤルサルーンG V8マルチ

あれも二万円
 これも二万円
 逸品勝負



ダンヒル
 ローリングダイス

一万円

'60年代製
 ロレックス・オイスター・デイト
 オメガ・シーマスター・30

各一万円



ワインクーラー



結婚式の引き出物をテーマにしたエキシビションDDP（ドリームデザインプロジェクト）に合わせて作られたもの。10月より伊勢丹BPQCにて販売される。1万2000円。☎コイケエージェンシー ☎03(5428)1735

「Stereotype」ランプ



13cm角の立方体。ソフトビニール製で床置きにも、ベッドサイドにも。オレンジと白、2個セットで1万400円。（バラ売り可）1個5200円。☎サカイデザインアソシエイツ sakai@sakaidesign.com

キャンドルスタンド



結婚の引き出物用ということで、おもちゃっぽくならないようシックな色を選んで作った。10月の東京デザイナーズブロックでの展示も予定。3個で8400円。（バラ売り可）☎コイケエージェンシー ☎03(5428)1735

フルーツボウル



「元気なトーキョー生活系」のプロダクトをデザインする中村氏。花の形を思わせるエレガントなフルーツボウル。鏡面仕上げとマット仕上げの2種がある。1個1万円。☎コイケエージェンシー ☎03(5428)1735

「Memory Memory」身長計



一見普通の身長計だが、実は身長計の目盛り用の数字の代わりに書いてある20世紀の事柄やキャラクターネームなどで成長を覚えていく。今後身長が変化する子供向け。9800円。☎コイケエージェンシー ☎03(5428)1735

NEでも随時エキシビションを行っている。10月4日～30日、若手クリエイターの運営、参加するウェブサイトを集め紹介するエキシビション「クリエイターズ・サイト展」を行う。☎リビングデザインセンターOZONE ☎03(5322)6500

Welcome to Creators Channel



デザイナー作品はデザインエキシビション、ウェブサイトでチェック。酒井俊彦、フラスコ、THINGS、中村鉄太郎の作品はDDPエキシビション出展作。10月より伊勢丹新宿店BPQCで販売。新宿リビングデザインセンターOZO

欲しいもの

身のプロの経験、知識から量産品に負けない手ごろな価格帯の商品を作っている。

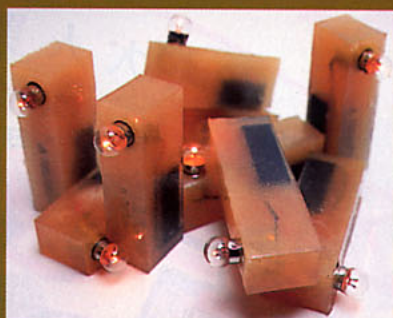
物作りのコンセプトに焦点を当てて製作するデザイナーも多い。3人組みのユニット、フラスコは「ものがユーザーを記憶する」というコンセプトのもと熱に反応して色が変わる机と椅子やコップを製作。最新作、燭台も鋳で出来ているキャンドルには「火が燃え尽きても愛は燃え尽きない」とメッセージが付く。引越など移動を考え折り畳み可能なシェルフを作ったのは若手建築家、インテリアデザイナー、グラフィックデザイナーのチーム、スプーンデザインユニットの「THINGS」が作ったのは日本の工芸産業を現代に活かそうとモダンな形の漆塗りのお皿。あるいはグラフィックデザイナーが平面の感覚を活かして、Tシャツやバッグなどの立体物を製作する、などなど。

いずれもアイデア出しから製作までデザイナー自身が納得いくものを作る、と言う点で共通している。もちろん、デザイナー自身もユーザーからの満足、とは実際に買う人の満足でもあるのだ。

今回は特集に合わせて合計一万円前後の商品を集めてみた。難を言えば巷の大量生産品に比べ割高感のあるところだろうが、この一万円には少量生産＝限定商品としての付加価値＋満足感が含まれているのである。

スープデザイン

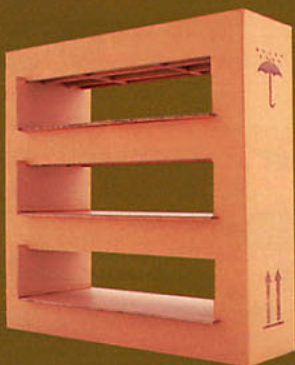
「MINE」ランプ



On/Offは豆電球をひねり入れるだけの最小限の照明器具。ゴムのようなテクスチャーで、中がわずかに透けて見える。10個で1万円。バラ売りも可だが、沢山並べるのが楽しい。
 ④スープデザイン soup@01.246.ne.jp

スープデザイン

「WDH」シェルフ



段ボール製の棚は簡単に折り畳みができ、畳むとフラットな状態になる。ユーザーの生活スタイルに合わせ、幅、奥行き、高さを変えられるシステム発展を予定。
 1個1万円。④スープデザイン soup@01.246.ne.jp

THINGS

漆皿



日本の伝統的な漆塗りの技術を現代の生活に取り入れる。こんなお皿で大皿料理を振る舞ってみたい。積み重なった一番上が9000円、二番目が1万2000円。④コイケエージェンシー 03(5428)1735

名児耶肇

ブルゾン



グラフィックデザイナーの名児耶氏、作品は平面にとどまらずTシャツ、バッグ、ブルゾンなども製作。ブルゾン1万1000円。(現在品切れ中のため参考価格) ④Send and Return 03(3406)1514

ボックスデザイン

村山純子

SILVER BOBBIN something blue-



Photo/NAKAMURA michiaki

銀製のボビンに革ひもを付けたアクセサリー。何気ない日常品も見方を変えることで特別に見えてくる。9月OZONEでのエキシビション展示で発表。1個1万2000円。④ボックスデザイン pock@tokyo.email.ne.jp

リー・チョルソウ

ロングスリーブTシャツ



リー氏はフリーのグラフィックデザイナー。外国の洗剤を思わせるパッケージボックスも作成。柄は2色展開で、半そでTシャツもある。ロングスリーブTシャツ1万円。④L.C./S 03(5449)0925

のは自分でつくる。

付加価値と満足感が得られる一万円グッズ

Photo/WATANABE shinichi Text/WATABE chiharu

雑貨好き、バブルの名残、子供消費者の経済力、コレクター的体質、昨今のデザインブームと、理由は数々あれどとにかくもの多さでは現在の日本に勝る国はない。チープなガジェットから超高級品までありとあらゆるものがあふれかえっている。

とはいえ、選択肢が多いからと言っても本当に自分の欲しいものがあるとは限らない。ましてやデザイナーというスペシャリストなら、頭の中ではあんなものこんなもの、と想像できても実際に買い物に出してみると頭の中のデザインと合致しないことはしばしば。欲しいものがないならば、自分で作ってしまえ、とばかりに最近増えているのがデザイナー自主製作のオリジナルグッズ。いわゆるメーカーの介在なしに、自分で企画し、工場に掛け合い、製品を自主的に製作・販売する。

たとえばフリーランスのデザイナー、酒井俊彦さんの場合。普段は家電製品などパリのインダストリアルデザインをやっているが、何千何万という人数がターゲットの商品ではやはり制約が多く、その中で自分の個性など全くないに等しい。もっと自由に作りたい、と7年前からオリジナルの家具、小物などの作品を製作、販売を始めた。たまたま見つけた木工所や以前からつき合っている中国の機器メーカーなど様々な人々の協力と、もちろん酒井さん自